

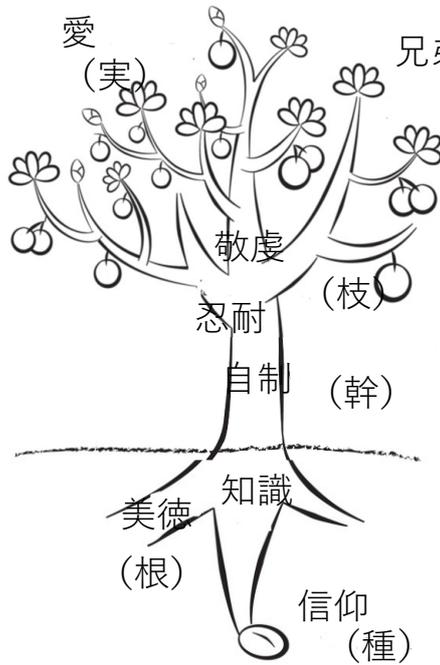
MSG9 ざくろの地(ざくろの木のある地) 重要なみ言葉	
良き地 ざくろの木	申 8:8 小麦と大麦とぶどうといちじくの木と ざくろのある地 ……、
大祭司の上服のす その周り 亜麻布のざくろ	出 28:34 すなわち、 上服のすその周りに 、金の鈴と ざくろ 、金の鈴とざくろとなるようにしなければならない。
宮の柱 銅のざくろ	列王上 7:20 二本の柱の上にある柱頭は、網細工のそばにある丸い突出部の上 にあり、近くにあった。 また二百のざくろが、それぞれの柱頭の周りに列になって いた。
雅歌 園の中のざくろ	雅歌 4:3 あなたの両頬は 、ベールの後ろにあって、 ざくろの片割れ のようだ。 雅歌 4:13 前半あなたの若枝は、最上の実を結ぶ ざくろの果樹園 、ヘナ樹に ナルド 雅歌 7:12 わたしたちは 、早く起きて ぶどう園 に行き、…… ざくろの花 が咲い たかを見ましょう

ざくろの地			
意義	I	ざくろが表徴する意義 と ざくろ となる経験	A 熟したざくろとその種が人に与える印象
			B ざくろとしてのキリストを経験する意義
			C 命において成長して円熟する(ざくろとなる)
適用	II	大祭司の上服の底部の 亜麻布の ざくろ と金の鈴	A 亜麻布で作られたざくろの意義
			B 召会生活のしるしは、金の鈴、ざくろにあります
	III	宮の二本の柱の頂にある 二百の青銅の ざくろ	A 柱頭の二百のざくろ
			B 百個ごとのざくろのうち、96 個が外側に露出して4個 は覆われていた
	IV	雅歌の中の愛する者(信 者)の経験の進展におけ る ざくろ の霊的な意義	A 愛する者の両頬はざくろのようであった
			B くるみの果樹園のざくろ
			C ぶどう園のざくろ
			D ざくろの果汁
E ざくろの果樹園			
負担	V	神聖な性質を享受するこ とを通して持つ卓越した 美德の発展	A 命と敬虔にかかわるすべての事柄
			B 命の完全な発展は信仰という種から愛という実に至る
			C



雅歌

回復訳アウトライン	「ざくろ」がある節		愛する方の愛する者の呼び方
I 引き寄せられてキリストを追い求めて、満足を得る—1:2-7	無し		雌馬、はとの目
II 召されて、十字架との一を通して自己から解放される—2:8-3:5	無し		ゆりの花、はと
III 召されて、復活における新創造として、昇天の中で生きる—3:6-5:1	4:3	あなたの両頬は、ペールの後ろにあって、 ざくろの片割れ のようだ。	煙の柱、新台、輿、冠、園
	4:13	あなたの若枝は、 最上の実を結ぶざくろの果樹園 、ヘナ樹にナルド	
IV さらに強く召されて、復活の後の十字架を通して幕の内側で生きる—5:2-6:13	6:7	あなたの両頬は、ペールの後ろにあって、 ざくろの片割れ のようだ	テルザエルサレムシユラム
	6:11	わたしは……ざくろの花が咲いたかを見るために。	
V 主の働きにあずかる—7:1-13	7:12	わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、……ざくろの花が咲いたかを見ましょう	
VI 携え上げられることを望む—8:1-14	8:2	わたしはあなたを導き、わたしを教えたわたしの母の家にお連れして、わたしのざくろの果汁からの香料を混ぜたぶどう酒をあなたに飲ませましょう。	



兄弟愛 (花)

II ペテロ 1 : 5 - 7

まさにこのゆえに、勤勉の限りを尽くして、あなたがたの

信仰に**美德**をあふれるばかりに供給し、

美德に**知識**を、

知識に**自制**を、

自制に**忍耐**を、

忍耐に**敬虔**を、

敬虔に**兄弟愛**を、

兄弟愛に**愛**を供給しなさい。

ざくろの地

聖書：申 8:8. 出 28:33-34. 列王上 7:18-20. 雅 4:3 後半, 13 前半. II ペテロ 1:3-8

ざくろが表徴している意義とざくろとなることの経験

聖書において、ざくろが表徴するのは、命の豊満、および命の豊富の表現です

I. 聖書において、ざくろが表徴するのは、命の豊満、命の満ちあふれと美しさ、命の豊富の表現です——申 8:8. 出 28:33-34. 列王上 7:18-20. 雅 4:3 後半, 13 前半：

ざくろとしてのキリストを経験する意義

* 熟したざくろとその種は、命の豊満と命の満ちあふれと美しさを表徴します

A. 熟したざくろとその種は、命の豊満と命の満ちあふれと美しさとの印象を与えます。

* キリストを小麦、大麦、ぶどうの木、いちじくの木として経験し享受するとき、その命の成長の結果はざくろとしてのキリストを経験することです。

B. わたしたちがキリストを小麦、大麦、ぶどうの木、いちじくの木として経験し享受するなら、キリストの命の満ちあふれがわたしたちと共にあり、キリストの美しさがわたしたちの周りにあるでしょう。これがキリストをざくろとして経験することです。

命が円熟しざくろとなることの意義と経験

* ですから、わたしたちは、命において成長して円熟し、ざくろとなるには、主を愛し、支配され規制され、キリストによって浸透され飽和される必要があります。(ざくろとなる鍵)

C. わたしたちは、命において成長して円熟するなら、ざくろとなります——コロサイ 2:19. 1:28:

1. わたしたちは、主イエスに対するわたしたちの愛から、進んで彼によって支配され規制されればされるほど、ますます命において成長します——13, 28 節。
2. わたしたちは、キリストがすべてを含むこととすべてに拡張することのビジョンを見るなら、わたしたちの全存在をこのキリストに集中させるでしょう。そうすれば、彼はわたしたちを満ちし、わたしたちに浸透します——12 節. 2:9, 16-17. 3:10-11 :
 - a. わたしたちの存在は、広大な、計り知れないほど豊かな、拡張するキリストで占有されます——エペソ 3:18。
 - b. わたしたちにとって生きることは、わたしたちを所有し、ご自身でわたしたちを満ちし占有するキリストとなります——ピリピ 1:20-21 前半. エペソ 3:17 前半。
3. キリストの中で完全に成長することは、キリストで満たされ、浸透され、飽和されることです——コロサイ 1:28 :
 - a. これは、わたしたちの存在のあらゆる部分がキリストで占有されることです——エペソ 3:17 前半. ガラテヤ 4:19。
 - b. これが命における成長、また命における円熟であり、コロサイ人への手紙に啓示されているキリストを経験した結果です——2:9, 19. 3:4, 10-11。

大祭司の上服の底部の亜麻布のざくろと金の鈴

大祭司の上服にあるざくろと金の鈴は、正常な召会生活のしるしを表徴します: 人性の中の命の豊富の表現があるだけでなく、神性の中の即時的な語りかけがあります。

II. ざくろと金の鈴が、大祭司の上服(召会を表徴する)の底部にありました——出 28:33-34 :

* 亜麻布で作られたざくろは、召会が、その人性において命に満ちていることを表徴しています。

A. 召会は人性において命に満ちているべきです。これが、亜麻布で作られたざくろの意義です。

* 召会は人性を、命の豊満の表現のために持っているだけでなく、また神性を、金の鈴を鳴らす

ための神性な語りかけを持ってします。

B. 召会は人性を、命の豊満の表現のために持ってあり、また神性を、金の鈴を鳴らすために持っています：

1. 命の豊満は、召会の人性において表現されますが、警告の声は、召会の神性（金の鈴）において表現されます。
2. わたしたちはまず命の豊満の表現を持ち、次に金の鈴の音、すなわち召会の神性から出る語りかけを持ちます。
3. わたしたちの人性において表現される命の美しさと、金の鈴から出る神聖な音は、正常な召会生活のしるしです。

宮の二本の柱の頂にある二百の青銅のざくろ

二百のざくろは宮の柱の頂にあり、召会生活の中の勝利者を表徴します。彼らは主を証し、二百倍の命の豊富を表現します—

III. 宮の柱の頂にある柱頭を囲む二百のざくろは、命の豊富の表現を表徴します—列王上 7:18-20. 歴代下 3:15-16. エレミヤ 52:22-23:

*勝利者はみな、裁きを受け、自分自身が焼かれ清められることを願う者です(青銅の柱)。

*彼らは神の建造において錯綜した複雑な状況(格子細工の網と鎖細工の飾りひも)のただ中で、完全に責任を担う(柱頭の高さが5 cubit)ことができます。

*彼らは完全に神に信頼し(ゆりの花)、霊によって生き、

*二百倍の命の豊富(ざくろ)を表現します

A. 自分自身を裁く者(青銅)と、自分自身を無と考える者は、錯綜した複雑な状況(格子細工の網と鎖細工の飾りひも)のただ中で、完全に責任を担うことができます。なぜなら、彼らは自分自身によってではなく、神にある信仰(ゆりの花の細工)によって生きるからです。ですから、彼らは二百倍の命の豊富(ざくろ)を表現します—列王上 7:15-22。

*外に露出しているざくろ(96 個)と覆われているざくろ(4個)は、わたしたちの天然の命は隠され、キリストの命が表現さなければならぬことを示しています。

B. 百個ごとのざくろのうち、九十六個が空中に露出しており、四個が覆われていました—エレミヤ 52:22-23:

1. 命の豊富の表現は永遠に完全 (12) であり、復活の新鮮さの中 (8) に、またその霊の中 (空中に向かって) にあります。
2. 百個ごとのざくろのうち四個が隠されていたという事実は、わたしたちの天然の存在 (4)、わたしたちの天然の命、わたしたちの自己が隠されなければならないことを示します。
3. わたしたちの天然の存在が消え去るとき、わたしたちは、九十六個のざくろ、すなわち、霊的な空気の実際の中にあるキリストの命の豊かな表現を持ちます。

* 96 個の数字の持つ意味は— 12×8 で、12は永遠で完全を意味し、8は復活の新鮮さを意味します。

* また「空中に向かって」露出していることが意味するのは、命の豊富の表現が、目に見えない空気の実際の中、その霊の中にあることを意味します。

* 4 個の数字の持つ意味は、わたしたちの天然の存在を意味します。

命の豊富の表現は、

永遠で完全であり(十二)、復活の中にある新鮮さ(八)、またその霊の中にあり(空気中)にあり、またわたしたちの天然の存在(四)、天然の命、自己は覆われていることによります。

雅歌の中の愛する者(信者)の経験の進展におけるざくろの霊的な意義

雅歌は絵図を用いて信者とキリストの、愛の交わりの霊的な経験の進展を描写しています。

- IV. 雅歌によれば、ざくろには、個人の信者とキリストとの愛情に満ちた交わりの漸進的な経験において、霊的な意義があります——雅 4:3 後半, 13 前半, 6:7, 11, 7:12, 8:2 後半:

***命が表現の中で隠されている:**

愛する者の両頬はざくろのようであって、命の美しさと豊満を表現しています

A. 「あなたの両頬は、ベールの後ろにあって、ざくろの片割れのようなだ」——4:3 後半, 6:7。

***命が主のための働きの中で成長する:**

愛する者はざくろのようであり、命で満ち、その働きの結果はぶどうの木が芽を出し、ざくろの花が開くことです

B. 「わたしはくるみの果樹園へ下って行きました。谷間の新緑を見るために、またぶどうの木が芽を出したか、ざくろの花が咲いたかを見るために」——11 節。

***命が召会生活の中で表現される:**

愛する者は主と一である、共に働き、ざくろが諸召会の中で花を咲かせるようにします

C. 「わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう。そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」——7:12。

命が円熟し、主を喜ばせる:

愛する者の命が円熟しざくろの果汁から香料を混ぜたぶどう酒で、主を喜ばせます

D. 「わたしは……わたしのざくろの果汁からの香料を混ぜたぶどう酒をあなたに飲ませましょう」——8:2 後半。

***命が実を結び、主を享受させる**

最終的に愛する者はざくろとなり、最上の実を結び、キリストの享受となります。

E. 「あなたの若枝は、最上の実を結ぶざくろの果樹園」——4:13 前半:

1. キリストが彼を愛する者を享受することにおいて、彼女は閉じられた園であって、あらゆる種類の異なる色の植物を、内なる命のさまざまな表現として成長させ、またさまざまな香りの植物を、円熟した命の豊かな表現として成長させます——13-14 節。
2. これは主にとって、愛する者の美しさとなります。キリストを愛する者は今や命において豊かであり、実を生み出して養い新鮮にし、甘い香りを放ち、美しい色を展示し、キリストに享受していただきます。

神聖な性質を享受することを通して持つ卓越した美徳の発展

ペテロの第二の手紙は、信者たちに勤勉に、命の卓越した美徳を発展させ、命の完全な円熟へと至り、神聖な命の豊満を表現するように、励ましています

- V. II ペテロ第 1 章 3 節から 8 節には、神聖な性質を享受することを通して持つ、卓越した美徳の発展があります:

***命と敬虔の事柄:**

命と敬虔にかかわるすべての事柄」とは、神聖な命のさまざまな面であり、それらは良き地の産物の豊富によって予表されています

A. 「命と敬虔にかかわるすべての事柄」とは、神聖な命のさまざまな面であり、それらは良き地の産物の豊富によって予表されています——II ペテロ 1:3:

1. **命は内側のものであり、わたしたちが生きることができるようにします。敬虔は外側のものであり、内側の命が外側で表現されることです。**
2. **命は内側のエネルギー、内側の力であって、外側の敬虔を生み出します。** それは栄光へ導き、また栄光という結果になります。

***信仰は愛の実を育てる:**

信仰は、すべてを含む命の種であり、愛は、その完全な発展における実です

B. 信仰は、すべてを含む命の種と考えられ、愛は、その完全な発展における実と考えられるでしょう——Ⅱペテロ 1:3, 8。

***命が発展し円熟する過程:**

信仰という種から、美德と知識という根、自制という幹、忍耐と敬虔という枝々を通して、兄弟愛と愛という花と実へと至ります

C. 最終的にわたしたちは、命における完全な発展と円熟を持ちます。それは、信仰という種から、美德と知識という根、自制という幹、忍耐と敬虔という枝々を通して、兄弟愛と愛という花と実へと至ります——5-8 節。

